

授業概要

他者たちのアメリカ文学/文化

人種・階級・性差という言い方があるが、これまでの西洋文学史はいわゆる「上流階級の白人の男性たち」の帝国主義のもとに構築されたものである。この授業では、支配階級であった「上流階級の白人の男性たち」の対極におかれ、迫害されてきた黒人、女性、労働者などについて考えてゆく。いわゆる「他者たちのアメリカ文学」というテーマで授業を進めてゆくことになるだろう。従来の単調な文学のとらえ方でなく、現代思想、カルチュラル・スタディーズをまじえた新しい文学論を展開してゆきたい。

以下のいくつかのテーマで文学/映画を分析してゆく。

授業計画

第1回	導入—他者とはいかなる存在か
第2回	侵入してくる他者—最後の銃弾と先住民という他者
第3回	攻撃される国家—手・外国恐怖・ゾンビ
第4回	ゾンビの文学/文化史—小泉八雲からゾンビ映画まで
第5回	文学/映画における身体障害者のイメージ(1) ポーの短編におけるフリークス
第6回	文学/映画における身体障害者のイメージ(2) 演劇『エレファント・マン』を分析
第7回	マイケル・ジャクソンとエレファント・マン—変貌してゆく身体
第8回	犯罪者という他者—フランケンシュタインの怪物と生来性犯罪者
第9回	苦悩するアメリカ文化の女たち—『緋文字』から『アナと雪の女王』まで
第10回	冷戦と宇宙からの他者—アメリカはいかに他者をモンスターにしてきたか
第11回	同性愛者とエイズ恐怖—『フィラデルフィア』『そしてエイズは蔓延した』
第12回	父親という他者—『ジミー』にみる少年の成長物語
第13回	同時多発テロとその文学/映画
第14回	デジタルかアナログか—読書終焉の世界—『華氏416度』『タイムマシーン』
第15回	アメリカにおける他者の捏造とは
第16回	まとめ ディベートなど

到達目標

他者という存在がなぜ必要とされるのか、その謎に迫りたい。また多くの小説の名場面に触れることで、活字の世界への関心がわき、国語力のアップにもなることを目指す。

履修上の注意

言うまでもなく授業中の私語、睡眠は許されない。マナーを尊重して楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な参加を望みたい。大量の資料を配布するのでファイルを持参のこと。時に暴力的な映像やグロテスクな場面も授業で見ることがあるので、苦手な人は注意してほしい。できるだけ普段から関心をもって本を読むように心がけてもらいたい。配布した資料にはかならず目を通すこと。

予習復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

評価方法

レポートと授業中の発表およびコメントなどの総合評価

テキスト

別に指定する（主にプリントなどの資料配布）